

amichan no eroihon!

ADULT★ONLY

突然おかしな事を
喋りだした川嶋に
俺は少し戸惑っていた――

なんでパパ役なんて
やってるの

高須君とタイガーの
関係…すごく不自然

幼稚なおママゴトは
もうやめた方がいいよ

きっと最初から
間違ってたのよ

…な

大怪我する前に
目を覚ましたら？

全部チャラに
して…

川嶋が俺に何を
言おうとしてるのか
よくわからなかったけど――

いちから始めれば
いいじゃん

それです...

あたしの事も





今思えば
いつもと雰囲気の
違う川嶋のペースに

俺はいつの間にか
のまれ始めて
いたのかもしれない——

いちから入れてよ



あたしの事も
きちんと見てよ

高須君…



川…嶋？

……



ど…

川嶋
どういふ事だよ

俺は別に

高須君は何も
わかってないのよ…
何も…



何も
わかってないのに

変な所ばかり
気がついてさ…

亜美ちゃん調子
狂わされつばなし…



高須君のせい...

高須君が
あたしの気持ち

全然気付いて
くれないから...

き...気持ちって
言われても...

見てるだけ…
それでも良いって

自分に
言い聞かせてきた

けど…

キッ…

けどね

櫛枝さんや
タイガー…

みんな自分に
嘘ついてばかり

ゴッ

お…

ゴッ

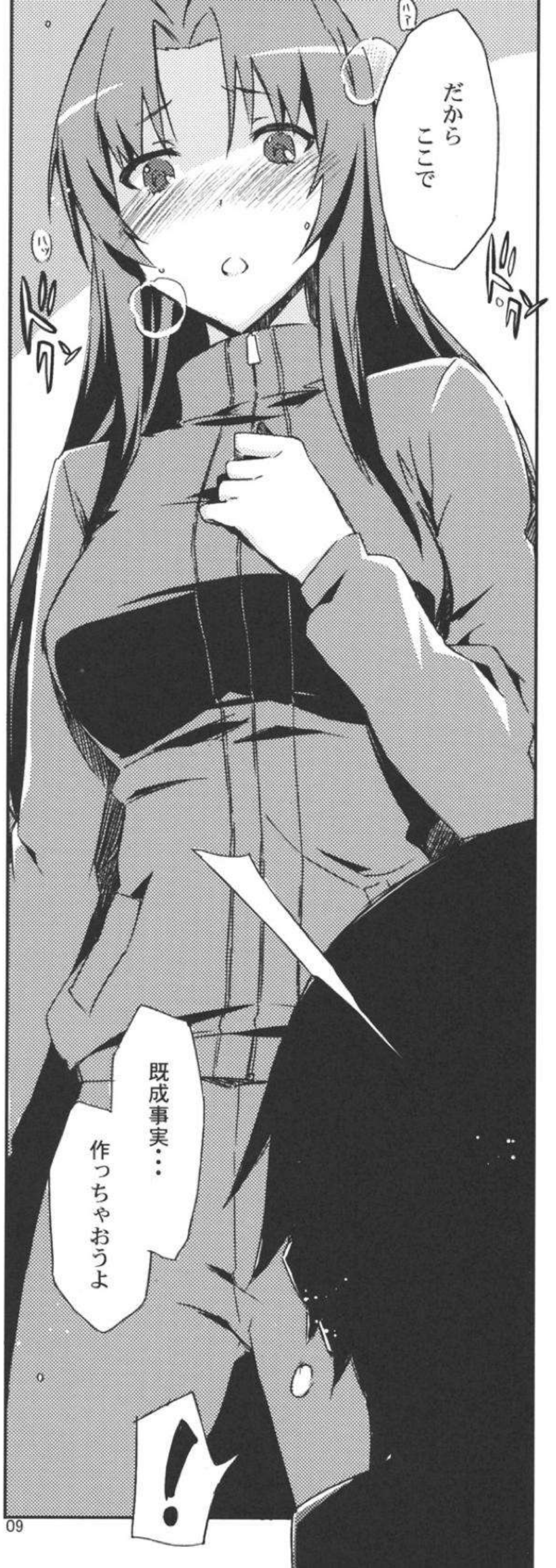
おい…

そしてあたしも
逃げてばかり

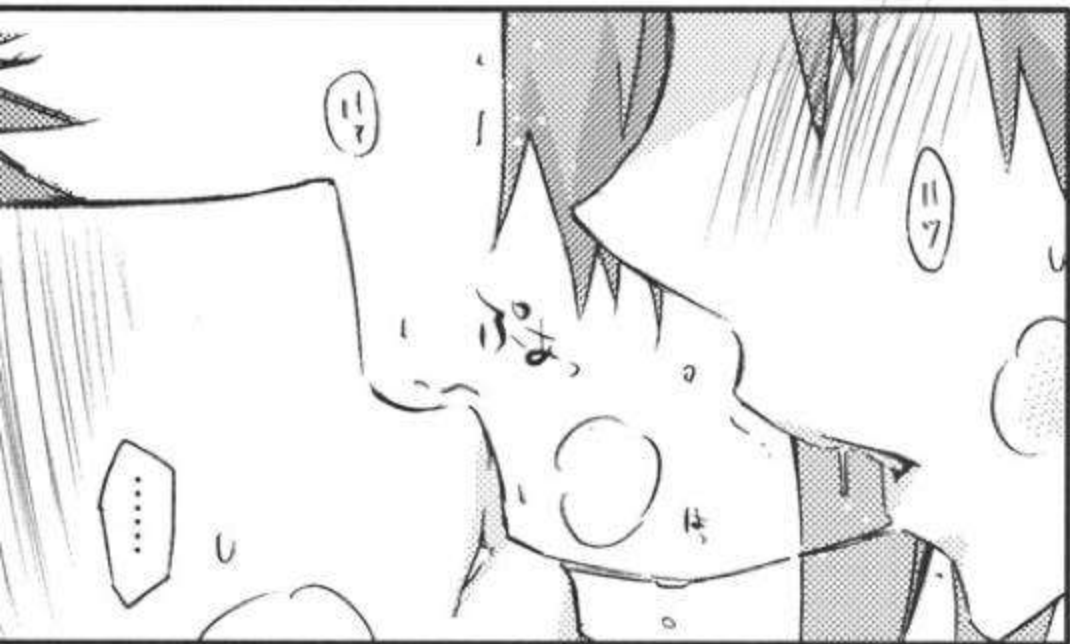
もういや…

見てられない
我慢できない

あたしは高須君を
あきらめない！











高須君は…

挿れるね
高須君…

そのままが良いから

ん…

15

おいっ!

イチャイチャ!!

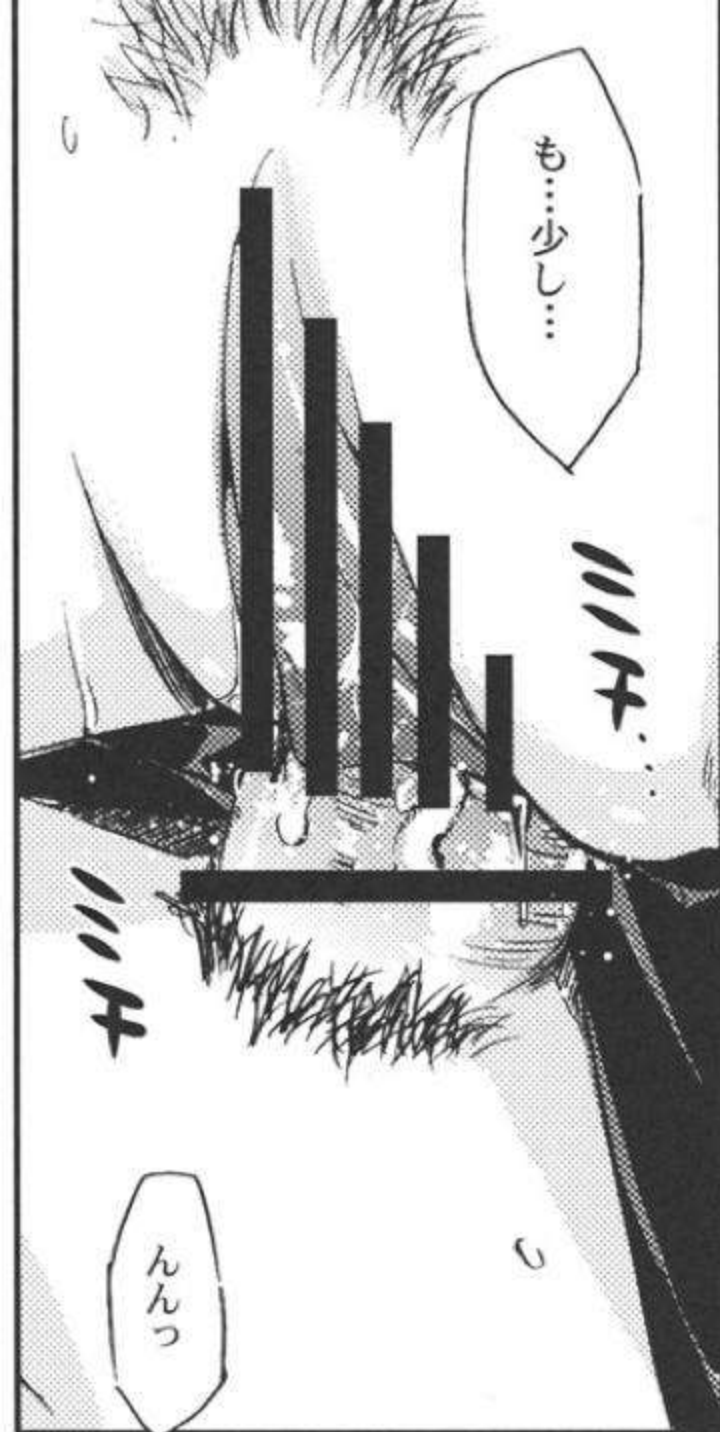
さわ。

か…わっ

っ…

うああ…







そんなバカ
やっちやうくらい

高須君が…
好き…なんだよ…



だけど川嶋の中は
あまりにも気持ちよすぎて



川嶋の泣き顔を見て
萎えてしまうかと言えば
そんなことはなくて…

ひたすら気持ちよく
なってくる自分が
情けなかった—

川嶋が居なくなってしまうとか
俺を好きだとか…
考える事は山ほどあった



たかっ…

俺はそれ以上
考えることができなかった—



かわ…しま

飛んでしまいそうな意識の中
夕日に照らされた川嶋は
とても綺麗で—

たかすくん…

たか…

たか…すくん

たかすくん…



はっ

たかすくつ…ん



川嶋っ

好き…
だよっ

覚えているのはその事と
やけに熱い
川嶋の体温だけだった

たか
す…っ
くんっ



…っ

たか
す…っ
くんっ

たかす
くんつ

たかす
くんつ
!

好きっ

あゝ
♡

かわし
まあっ

かわ
し……

すき……

たか……

……
く

……



ああつ

あつ...

はあう...

んん...

は...

あ...あ

だけどそんな中で

20

ひとつだけ自信を持って
言える事が見つかって

はっ...

はっ...

はっ...

あ...ああ

はあ...

サポっ
ちやったね...

ツリーの
準備...

俺は

あ...ああ



勝手なことは
わかってるよ…

……



俺は

さっきまでの事は

忘れて…

高須君



ほんと…
ごめんね…

みんなのトコ
戻るね…



いくなよ



でもやっぱり高須君を
襲ったのは
マズかったかな

亜美ちゃん
大失敗

ほんと…



いてくれよ

ツリーの作業も
途中

ずっと
その...



いくなよって...



そ...それによ
俺...初めてだったんだぞ

責任...
とってもらわねーと



高須君...



え？

やめんなよ...

学校...

お前がいなく
なったら...

いちからお前を見るも
糞もなくなっちゃう

そりゃ 櫛枝のこととか
すぐには難しいかも
しれねーけど

川嶋が居なくなるって
聞いて…

イヤだったんだ
川嶋が居なく
なるなんて…だから

た…かす
く…ん

そこまで言うとなら
川嶋が飛びついてきて

川嶋はあっさり
学校を辞めることを
取り消した—

それから いつかちゃんと
好きっていわせるんだと
悪戯っぽく言ったけど

きつとそれは
そう遠くない未来にやってきて…
そうなることを川嶋に全部
見透かされている様に思えて…

俺は少しだけ悔しくなって…
もう川嶋のことばかり
考えていることに
気づく暇もなかったんだ—

はじまりの責任
しれたかな…

んー？

うませー

あとがき

お疲れ様です。EDです。
お手に取っていただきまして本当にありがとうございます。
今回はとらドラということにして、いろいろと語りたいた事がありますよ…。

最初は創作の予定だったのですが、いろいろあって、とらドラになりました。
とらドラはリアルタイムの時は完全スルーを決めてたんですが、最近勧められてしぶしぶ見たら
見事にはまったという感じです。いつもいまさら感のあるネタが多いですが…。

話の内容としては、正直最初にやりたかったのとはだいぶ変わっているような気がします…。
竜児視点にしてしまったのが…という感じでしょうか。
二ナモリのとときとかなり展開が似通ってしまったな…と少し反省しております…。
あーみんな視点で素直に書いたらよかったかもしれませんね…。
そこが今となっては少し残念ですが…今回とらドラを知ってそれでかけたのはよかったです。

竜児はあーみんなに何度かそそのかされそうになっていたんで、きっと迫られたら
そのまま流されてしまうだろうな…と、いうところから入りました。
クリスマス会のあと、嫌いと言いつつあたりや、最終回など、
どこで話を展開させるかの候補はいくつかあったんですが、
最終的にはそれらを全部ひっくるめて体育倉庫のシーンでまとめることにしました。

今後とも精進しながら、なんとか頑張って少しでも良いものが描ければいいなあと思います。
またこうして、お手に取っていただければ、こんな幸せなことはないんじゃないか…という感じです。

いつも見てくださっている方、初めて見てくださった方、共に本当にありがとうございます。
ほんの少しでも気に入ってもらえれば本望です。
気に入ってもらえなかったら、次気に入ってもらえるように頑張ります。

それではこの辺で、
またの機会があることを願ひまして…。

ED

締め切りがやばいなか、ページの構成上埋め忘れて白紙入稿になるところで、
久坂さんがゲストを書いてくれました。登場はきられぼぶりです。

ありがたい…。

と思いつつも相変わらずしょうもない漫画を描いてくる…んですが、僕には描けないので懂れますね…。
巻末漫画としてお楽しみください。

奥付

サークルED(EDGE)
「アミえろ!」

2009-08-16
発行者 ED

連絡先 ed@redsky.sakura.ne.jp
印刷所 大和印刷所

